

福祉教育への挑戦(2)

教科「福祉」と向き合う

高井裕二

現場を分かる教員に近づけるか

地域包括支援センターで勤務していた時に介護職員から「現場を知らないくせに！」とか「あなたは現場のことをわかってない」と言われることがありました。この「現場」というのは非常に厄介な言葉で、言われていた私も経営者に対して「現場のことをわかっていない」と考えるようなことがありました。果たして現場とはどこでしょうか。結局、自分の持ち場(勤務している部署)を範囲として、受け入れがたい対応や状況に出会うと「『現場』をわかっていない」というフレーズを使うことが多くなるのではないのでしょうか。

また、「現場を『わかっていない』」に焦点を当てると、「自分が今担っている業務経験を対象者が持っていない、あるいは乏しい」という視点も考えられます。私は相談援助職としての経験はありますが、介護職員としての経験が全くありません。ソーシャルワークとケアワークは共通する価値や知識はあるものの、どちらも異なる専門性があり、上下の関係にあるものではないと考えています。

このような議論も補助線にしながら、今回は教科「福祉」に向き合う社会福祉士にスポットを当ててみます。

教科「福祉」に求められる知識、経験

教科「福祉」は1999年3月の高等学校学習指導要領改訂時に創設された比較的新しい職業に関する専門教科です。2009年の高等学校学習指導要領の改訂時に科目名称の変更があり、現在の科目は表1の通りです。科目の新設や科目名の変更には、2007年に介護福祉士の養成課程が見直されたことが背景にあり、「社会福祉」から「介護」にウェイトが置かれていることがお分かりいただけると思います。この改定内容については「介護偏重」とも呼ばれ、問題点も指摘されていますが、多くの学校で介護系の資格を取得できます。例えば、私が非常勤で勤めている高等専修学

校は在学中に介護職員初任者研修(かつてのホームヘルパー2 級に相当)を取得でき、特例高校等の指定を受けていた学年は、卒業後に 9 カ月以上介護職としての実務経験を積めば介護福祉士の受験資格を得ることができます。生徒たちに学校を選んだ理由を尋ねると「資格が取れるから」という声をよく耳にします。そのため、メリットとして機能している部分があることが確認できます。

表 1 教科福祉の科目

2009 年改訂(9 科目)	改定前(7 科目)
社会福祉基礎	社会福祉基礎、社会福祉基礎
介護福祉基礎	基礎介護
コミュニケーション技術	社会福祉援助技術
生活支援技術	
介護過程	
介護総合演習	社会福祉演習
介護実習	社会福祉実習
こころとからだの理解	
福祉情報活用	福祉情報処理

教科「福祉」の教員免許は社会福祉士(ソーシャルワーカー)の養成校で取得できることが多いです。社会福祉士取得のために、福祉施設や機関に実習には行きますが、全ての人が高齢者施設に実習に行くわけではありませんし、最近では社会福祉士としての実習を重視するので、介護等の経験をする機会は減っています。つまり全く介護の経験がなく、介護系の科目を教えることになる教員がいることとなります。先述のように、私も地域包括支援センターの社会福祉士として相談援助業務経験しかないため、日々悩みながら授業展開しています。

私が学校から任され、担当経験がある科目はコミュニケーション技術と生活支援技術で、現在は生活支援技術のみ担当しています。介護過程や介護総合演習といった高度(担当している科目の価値が低いわけではありません)な介護知識・技術・教

授法が求められ科目は介護福祉士を取得されている経験豊富な教員が担当しています。とはいえ、生活支援技術も適切な介護技術を用いて安全に援助できる知識や技術について習得させることをねらいとする科目ですから、演習などを通して体験的に学べるような授業をすることが求められます。

生活支援技術を教えるために

生活支援技術は、国際生活機能分類(ICF)の考え方に基づいたアセスメント、多職種連携の知識を活用する内容があり、介護未経験でも社会福祉士の視点と共通するものがあり、これまでの相談事例を盛り込みながら話をすることができます。しかし、体位変換、移乗、身支度、入浴・清潔保持、食事介助などはどうでしょうか。介護実践の根拠となる介護の原理や原則に繋げながら話をするのですが、事前学習として教科書や資料を読んでも実感を伴った言葉を出すことができません。

学生はそれなりに満足してくれているようですが、「私ではなく介護経験豊富な教員に指導を受けていたら、もっと学生たちの知識・技術は深められるのではないか」という不安を抱きつつ教壇に立っています。そのため、少しでも中身のある授業ができるように、2つのことに取り組んでいます。1つ目は、社会福祉士のネットワークを活かして、介護経験が豊富な仲間から事例や介護技術などを教えてもらい、地に足の着いた言葉を使うことができるよう心がけています。2つ目は、今年の12月から介護職員初任者研修を受講し、今年の4月に無事修了しました。介護に関する基礎的なことを一から学ぶことに加え、「どうやって分かりやすく伝えているか」と講師の説明や授業展開などを観察することを通して自分の授業に活かすことを考えました。

もちろん、それだけで介護職の現場を理解できたとは思っていませんし、生活支援技術以外科目と連動させた指導なども十分に実施できていませんので、これからも自己研鑽して取り組んでいきます。加えて、私のような介護未経験の教員に必要な対する研修や環境整備などについても研究をしていきたいと考えています。次回は、学生とのやり取りから授業内容を深めることができたシーンを取り上げたいと思います。